



災害時の障がい児・者への支援
高齢者肺炎球菌ワクチン接種

小野 聡子
(公明党)

質問 災害対応ピクトグラムやコミュニケーションボード活用の考えは。また医療的ケア児や重症心身障がい児・者の薬などの対応は。

答弁 日常生活に配慮が必要な人や障害を持っている人と、避難所で円滑な意思疎通を図るための有効なツールであると考えている。今後、関係部局と連携し、実行に移していきたい。

また、自助が前提だが、緊急的に避難した場合の飲み薬などの手配は、臨機応変に対応していく。さらに、



専門的な設備や人材が整った避難環境にするため、昨年度に社会福祉法人等と協定を締結し、各施設を避難先として想定している。

質問 肺炎球菌ワクチンの接種対象者のうち、まだ接種していない人への勧奨は。

答弁 定期接種の機会は5年に一度のみであることを周知、啓発するとともに広報高崎やラジオ高崎などを活用した接種勧奨により、接種率の向上にも努めたい。



給水管に使用されている鉛管
公園での自転車利用

中島 輝男
(市民クラブ)

質問 個人が鉛製の給水管の取り替え工事をする場合、費用助成を行う自治体もあるが、本市の考えは。

答弁 国では鉛製給水管の解消を重点施策に挙げており、工事費の一部を助成する制度は鉛管の削減に向けた手法の一つと考える。配水管の更新事業を引き続き進めるとともに助成制度に

ついても他市の状況や効果を参考に研究していきたい。

質問 市民ゴルフ場跡地に整備予定の市民スポーツパーク構想の工程は。その中で、子どもが安心して利用できる自転車コース設置の考えは。

答弁 利用者の減少が続き来年9月に閉鎖を予定していた市民ゴルフ場は、台風



不登校対策と適応指導教室の充実
糖尿病重症化予防対策

中村 さとみ
(公明党)

質問 適応教室の現状とICTを活用し一人一人のニーズに応じた支援の充実は。

答弁 本市には8カ所の適応指導教室があり、社会的自立に向けて支援している。学習や運動時間の大枠は決めていくが、一人一人が予定を立てられるようにしたり、指導員との相談時間を設けたりしている。今後も指導体制や施設設備の充実を研究したい。

質問 糖尿病の患者数、糖尿病による透析の医療費は。また、治療中断者にも受診

勧奨を行い治療に結びつける考えは。

答弁 平成31年3月時点で、国民健康保険における患者数は9345人で、透析による医療費は約7億3500万円と推計される。また、受診勧奨に向け6月にレセプトデータから対象者を抽出できるようにしたが、特定健診のデータとの突合や加作業の手法を検討する必要がある。医療費抑制の面からも先進事例を参考に研究したい。



児童虐待防止への取り組み
防災・減災と居住誘導策

逆瀬川 義久
(公明党)

質問 本年10月に開設したこども救援センターの利用状況と児童相談所の設置について、現段階での本市の考えは。

答弁 当センターに寄せられた1カ月の虐待通告件数は33件で、昨年度の月平均通告件数の2倍程度になっている。また、高崎の子どもは高崎で守るという考え

で取り組んでおり、立入調査権や一時保護などの措置権限を持つ児童相談所の設置が必要であると思うが、今後、実績と経験を積みながら運用状況を踏まえつつ、調査研究を進めていきたい。

質問 市街化調整区域の開発について、防災・減災という視点から見直す必要があると思われるが、本市の

19号の被災により、3月末の廃止とする。今後は幅広い世代が利用可能なスポーツ施設の整備に向け、土砂の除去後、測量調査を予定



災害における避難所の課題
三井 暢秀
(市民クラブ)

質問 民間施設に範囲を広げた避難所の拡大や要配慮者の避難支援、福祉避難所の在り方は。

答弁 町内会の公民館や所有者の了承を得た民間施設など222の施設を届出避難所として登録している。また、避難行動要支援者名簿を作成し、災害時に地域と情報共有を行い、避難の難しい人への支援に活用する。さらに現在、福祉避難



所として長寿センターなどの市有施設19カ所と民間施設の55カ所を指定している。



令和2年度予算編成と本市の財政運営
高橋 美奈雄
(市民クラブ)

質問 令和2年度の予算規模と重点事業は。

答弁 高浜クリーンセンター1建替工事に着手するため大幅な増加が見込まれるが、高崎芸術劇場建設事業の終了に伴い、歳出の予算規模は前年度並みになると考えている。重点事業は、各部署からの要望をもとに選定を進めており、おとしよりぐるりんタクシーの整備や、まちなか商店リニューアル助成などの本市独自の経済対策を優先に考えている。

質問 複雑化する行政対応

には、市民に協働の必要性を示し、理解を求め、大切であるが、市の見解は。市民をはじめ、各種団体と行政が協働し、さまざまな視点で相互に連携することが不可欠であると考えている。また、災害対応や地域福祉分野における市の取り組みには、より身近な地域コミュニティ内での協力が必要であるため、今後も地域の理解を得ながら協働によるまちづくりに取り組みしていきたい。



「わくわく体験 新発見」
群馬DESTINATION
キャンペーン
春。ぐんまは華ざかり

群馬DESTINATIONキャンペーン
2020.4.1▶6.30
アフターキャンペーン 2021.4.1▶6.30

観光客誘致のためのキャンペーン

さらに詳しい内容は会議録で
市議会ホームページ（会議録検索）や以下の施設で、どなたでもご覧いただくことができます。
今回の本会議については2月下旬に公開予定です。

- 市民情報センター（市役所1階）
- 高崎市立図書館（本館及び地区館）
- 倉淵公民館図書室

考えは。
答弁 市街化調整区域だけでなく、市街化区域、非線引き地域も含めて考えている。防災・減災という観点から、開発許可の有無に関わらず、規制する必要性やその区域、方策について検討している。



平成31年・令和元年 市議会の状況

平成31年・令和元年中に開催された本会議や委員会等の開催状況と視察の受入状況をお知らせします。

※1月10日現在の閲覧数です。

区分	会期	会期日数	会議日数	一般質問者数	傍聴者数	インターネット中継閲覧数※
第1回定例会	2月22日～3月18日	25日	8日	19人	122人	1,084件
第2回臨時会	5月21日	1日	1日	-	4人	91件
第3回定例会	6月13日～6月27日	15日	6日	20人	140人	1,064件
第4回定例会	9月5日～9月27日	23日	6日	21人	196人	1,622件
第5回定例会	11月28日～12月12日	15日	6日	21人	141人	1,914件
計		79日	27日	81人	603人	5,775件

委員会等

区分	会議等開催回数	付託議案等の数	
		議案	請願
常任委員会	40回	95件	3件
特別委員会	16回	11件	-
議会運営委員会	26回	-	-
各派代表者会議	16回	-	-
広報委員会	4回	-	-

視察受け入れ 本市が先進的に取り組んでいる事業について全国から視察がありました。

受入団体数	受入人数
34市区町村議会等	255人

主な視察内容		件数
高崎アリーナ		8件
空き家緊急総合対策		8件
まちなか商店リニューアル助成		5件
介護SOSサービス		4件
くらぶち英語村		4件

福祉避難所 (P8参照) 高齢者や障害者など、一般的な避難所では生活に支障をきたす人のための避難所。

群馬DC (P8参照) 本市と観光関係者、JRなどが一体となつて行う大型の観光キャンペーン。

枝肉価格 (P7参照) 卸売市場などで取引される価格。

災害対応ピクトグラム 情報や注意を促すために表示する視覚記号のことで、災害時に使用することを目的としたもの。

コミュニケーションボード 意思や状況をうまく言葉で伝えられない場合に、イラストを指差して相手との意思疎通を図るツール。